

「世界中の困っている人を助けられる国際機関職員になりたい」

入門先：UNHCR 駐日事務所、国連 UNHCR 協会

日 時：2024 年 8 月 5 日（月）

講 師：UNHCR 駐日事務所 西村 愛子さん
国連 UNHCR 協会 天沼 耕平さん

《はじめに》

私には「難民の人々の力になりたい」という強い思いがあります。今回の短期入門では、東京にある UNHCR 駐日事務所で国連職員の方々に難民に関する基礎的なお話を伺うことができました。また国連 UNHCR 協会では大学生の方々と一緒にキャリア大学に裏方で参加して、難民支援に関する様々なことを学ぶことができました。その内容について以下にまとめたいと思います。

1. 短期入門に向けて

【事前準備】

- ・8月1日に UNHCR 駐日事務所職員の西村さん、国連 UNHCR 協会職員の天沼さんとオンライン会議にて事前の打ち合わせをしました。
- ・UNHCR 駐日事務所公式の YouTube で難民と国内避難民の違い等の基礎コンテンツの動画を見て事前学習しました。
- ・キャリア大学の時間割を事前に見て内容に沿って予習をしました。
- ・キャリア大学参加のための自己紹介を考えました。
- ・職員の方に聞きたい質問を考えました。

【考えた質問】

- (1) この仕事をしていて①嬉しいこと、②つらいことは何か。
- (2) UNHCR の職員になる上で習得すべき言語は何か。
- (3) 日々の勤務の中でどんな仕事があるのか。
- (4) 緊急支援はどのような状況の時にあるのか。
- (5) 実際に難民の人々がいる国に行くことがあるか。

2. UNHCR 駐日事務所訪問

【UNHCR とは？】

正式名称は『国連難民高等弁務官事務所』であり、紛争や迫害によって難民や避難民となった人々を国際的に保護・支援し、難民問題の解決へ向けた活動を行っている国連の機関で日本では東京に事務所があります。

【UNHCR 職員の西村さんとのお話】

世界における難民の状況、UNHCR の活動、日本における難民の状況、長引く難民問題と新たなアプローチ等、難民問題についてとても分かりやすく教えていただきました。

【難民問題に取り組む職員の渡邊さんとのお話】

難民が滞在している国で難民の人々と難民問題の改善を目指して活動してされていた渡邊さんとお話をさせていただきました。



左から 渡邊さん、私、西村さん

西村さんと渡邊さんとのお話

【わかったこと】

・ 質問(1)の答え

① 嬉しいこと

今回の難民キャンプでの活動で「このような点が良くなかったから次回からはこのようにしよう」と、次に向けての改善に携わることができること。

② つらいこと

難民を受け入れている国が少ない場合に色々な国に受け入れを要望しても叶わず、なかなか対応できないこと。

・ 質問(2)の答え

英語、フランス語は必須の言語であり、英語は特に大事で UNHCR の主流は英語であるそうです。

・ その他

渡邊さんから、語学だけではなく「特定の分野」において専門的な知識や資格を習得したらよいとアドバイスをいただきました。例えば IT の技術や経済・教育・食糧・水等に関して専門的に学び、理解することが重要だということです。

その他に、「将来難民になる人がいなくなり UNHCR という存在が必要なくなる方が良い」とお二人が言っておられたことが印象的でした。私もそれを聞いてとても強く共感しました。

3. 国連 UNHCR 協会訪問

【キャリア大学参加】

(1) 自己紹介

国連 UNHCR 協会職員为天沼さんやサポート役の今田さん、Sun Yan さん、オンラインの画面越しの大学生の皆さんと自己紹介をいたしました。



左から 天沼さん、私、今田さん、Sun Yan さん



キャリア大学参加の様子

(2) 難民問題についての講義

【国連 UNHCR 協会とは】

UNHCR の日本の公式支援窓口で、広報や募金活動に従事している特定非営利活動 (NPO) 法人です。

【各国の難民問題】

オンラインで示される映像や質疑応答を踏まえ、世界で起きている難民問題について学びました。

① ウクライナの支援

- ・ ブルードット (※) の設置
※ウクライナ難民の子どもたちと家族への支援拠点
- ・ 一時滞在センター



② ロヒンギャ

- ・地形的に平坦ではないところにシェルターがある。

③ アフガニスタン

- ・特に女性は小学校までしか通わせてもらえなかったり、ダンス等の自分を表現することをしてはいけなかったり、社会的地位が低い。また上の2つのことに反したら罰せられる。
- ・干ばつ（自然災害）
- ・食料危機

④ シリア

- ・2011年3月に戦争が始まる。
- ・シリアはとても素敵な国で、シリアに住んでいる人やシリアが好きな人もまさかシリアで戦争が起こるなど全く思ってもいなかった。
- ・これは自分達と戦争は無関係だと思っている日本でも同様のことが起こりうる、ということ。「平和を続けさせていくことは、平和を自分達が作り続けていかなければならない」と教えてくれた。

《新たな学び》

『難民はただ助けを求めているだけでなく**困難**に立ち向かう**民衆**』であるということ。

【私が特に印象に残ったお話 ～難民選手団の結成～】

- ・2021年「難民選手団」が結成され、東京オリンピックに29名、パラリンピックに6名が出場しました。
- ・今年のパリ五輪にはオリンピック37名、パラリンピック8名が出場しました。

～2021年東京五輪で起きたイランの選手とイスラエルの選手の話～

イランとイスラエルは国同士で仲が良くありません。柔道イラン代表のモラエイ選手は、日本武道館で2019年に開催された世界選手権に出場しましたが、敵対国であるイスラエルのサギ・ムキ選手と戦う可能性があったため、イラン政府から出場辞退を迫られ、「辞退しなければ家族を殺す」と脅されたそうです。同選手権を終えたモラエイ選手は帰国せずにドイツに逃れ、その後、国籍を取得したモンゴルから東京五輪への出場を果たし男子81キロ級で銀メダルに輝きました。

一方のサギ・ムキ選手は、混合団体で銅メダルを獲得。モラエイ選手との2人の写真を自身のSNSに掲載し、「1枚の写真には千の言葉と同じ価値がある。東京五輪で親愛なるモラエイ選手と一緒にいることを誇りに思う」と書き込みました。「私たちは話し合えば分かり合える」ということを東京五輪を通じて世界に発信し、証明しました。

《講義の最重要ポイント》

この現状の中で自分達ができることは

「知る」「広める」「参加する」「寄り添う」
ということ。

【講義で思ったこと】

- ・自分が難民の人々のような立場だったら苦しいと思う。
- ・皆に自分ごとのように感じてもらうことが大事。
- ・みんなが力を合わせないとたくさんいる難民の人々を救うことができない。
- ・どんな支援をするときでも常に今つらい思いをしている人々の気持ちを考え、寄り添った支援をしていきたいと思う。
- ・難民の支援にはたくさんのお金が必要であり、私たち個人に求められる支援はお金の寄付だそう。私ももちろん寄付したいと思うが、難民の人々に十分な支援をするにはたくさんの人々からの寄付が必要。そのために社会に向けて理解を深めるために難民の人々のことを発信し続けることが大事だと思った。

(3) いのちの持ち物けんさ

【いのちの持ち物けんさとは？】

『自分への気づき』を元にして、難民の人たちの心の痛みに寄り添うため「自分にできることは何か」を考えるきっかけを作ること、また難民について知ってもらうことを目的としたワークショップのこと。



【ワークショップの流れ】

自分のアイデンティティを構成するもの（今持っているものや自分を証明するもの）を全て書き出し3色にカテゴライズする。“自分”とは誰であるかを目に見える化し、喪失の疑似体験を通じて、自分を見つめ直しました。その上で、かけがえのないものを失った難民の人達に、どのような援助が必要とされているか、自分に出来ることは何か考えました。

【「いのちの持ち物けんさ」で思ったこと】

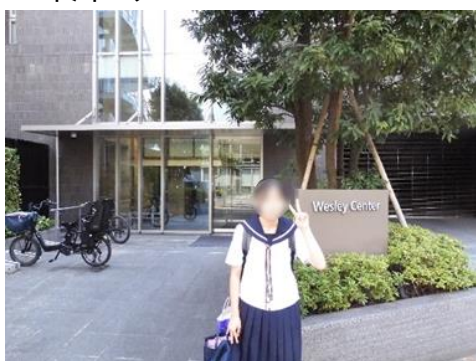
私がこのワークショップに参加して、「自分には大切なものがたくさんあってそれらはどれも絶対に失いたくない宝物である」ということに気づきました。難民の人達にも私と同じようなかけがえのない大切なものがあつたのにそれらを失ってしまった人がたくさんいて、耐えられないほどつらく悲しい気持ちでいるということを実感することができました。難民の人々の気持ちに寄り添い、あたたかな支援を広めて、継続していくことが大切だと思いました。

(4) ファンドレイジング

「ファンドレイジング」とは支援を募る過程を通じて社会の課題を示し、その課題解決への参加者を増やし社会をよりよくしようという取り組みのことです。今回のワークショップでは、「スポーツ」や「旅行」等いくつかの分野においてどんな方法で難民支援の参加者を増やせるかということグループ毎に話し合いました。最後にグループごとに代表者が発表し、それぞれの意見を共有しました。



《終わりに》



短期入門では、実際に UNHCR 駐日事務所勤務されている西村さんのお話を聞いたり、海外で難民支援の活動経験がある渡邊さんに質問させていただいたりして、職員の方の仕事内容や仕事に対する思いを知ることができ、私の将来の方向性を考える上でとても参考になりました。

また、キャリア大学では天沼さんや大学生の方々とのワークショップを通して、難民支援を社会全体の課題として理解を広めていくことがとても大事だと学びました。これからも難民の人々に関する勉強をし続けると共に、支援の理解と参加を呼びかけることについても学び続け実践していきたいと思えます。